

校長の話

校長 上村 哲也

2学期になってもコロナは治まりませんでした。それどころか、最近は館林市でも多くの人の感染が報告されています。楽しみにしていたお出かけや地域の行事なども中止となり、がっかりした人も多いことだと思います。6年生は、泊まりで行くはずだった修学旅行が日帰りになり、残念でした。そのことは申し訳なく思います。

我慢することや、しなければならぬ余計なことが求められるような中で、いろいろしたりあきらめかけたりしたこともあっただろうに、みなさんよく学校に通ってきました。それだけでも「がんばったね。」「偉かったね。」と思っています。2学期を乗り越えてきた自分をほめてあげてください。

＜ここで、学校だよりの一部を読みました＞

私が一番うれしく楽しかったことは、前向きにがんばる子どもたちの姿を、毎日たくさん見られたことでした。例えば、長い廊下のぞうきんがけに黙々と取り組んでいた子、まっすぐ手を挙げて意見を発表していた子、間違っただけを繰り返して練習していた子、友だちにさりげなく手を差し伸べる優しい子など、この紙面ではとても伝えきれません。

本当にがんばった人を沢山みることができました。係や当番の仕事とか、高学年は委員会の仕事もよくやってました。授業に取り組む姿勢も立派でした。どの学級も。

ここで、私からお願いがあります。

「家族に伝えたい 私ががんばったこと！」を家族の人に伝えてください。きっと楽しい冬休みが始まります。

さて、もう一つ話です。話はガラッと変わります。

これは、群馬県教育委員会というところから皆さん宛に届いたメッセージです。

＜ここで、メッセージの一部を読みました＞

新型コロナウイルス感染症が広がり、今までとは違った学校生活を送っているみなさんの中には、いろいろな理由で悩んでいる人がいると思います。また、悩みをだれにも相談できない人もいるのではないかと心配しています。だれかに話すことで、気持ちが楽になったり、問題が解決に向かったりすることもあります。みなさんには、一人で悩まないで、家の人や友だち、学校の先生、スクールカウンセラーなど、近くにいる人に相談してほしいと思います。

最初にがんばって偉いねと言う話の後、 疲れている人いませんかという話ですが、実は、頑張りすぎてしまうと疲れてしまう事ってあるのです。

そのようなときは、だれかにSOS 話を聞いて・助けてというサインを送ると解決への道が開けることが多いのです。一人で悩みを抱え続けることが一番よくないのです。SOSを上手に出す事は、よても大切で必要なことなんです。

みなさんも、心にとめておいてください。 これで、話は終わります。

